



認知症デイサービス事業所さくら番場

**空き地で高齢化対策**  
 まず、高齢化と空き家・空き地対策として取り組んだのが、福祉拠点の誘致。それに応えてくれたのが、「住みなれた地域のなかでサテライト型デイサービスを実施したい」と考えていた滋賀県社会福祉事業団です。建設用地は、地域づくり協議会が地権者と交渉して空き地を確保。建物については、小林研の設計により、地域産材を活用し、土間は伝統工法で田根小学校児童が作業を行いました。こうして、平成22年に完成した小規模デイサービスは「さくら番場」と名づけられ、地域福祉の拠点として、利用されています。

**空き家の有効活用**  
 現在は、小林研を中心に谷口町の空き家を改修し、学生など若者が集い、ともに地域づくりを考える研究活動拠点としての整備をしています。また、池奥町の空き家は、お試し居住できるように改修し、受入れプロセスの整備など地方移住のモデルとなるよう整備されています。今年7月のワークショップでは、子ども達に地域に愛着を持ってもらおうと、MITと同志社大学の学生とともに地域再発見のための田根オリジナルマップづくりが行われました。そして夕方からは、谷口町の空き家で学生による研究発表会や交流会が行われました。発表会では、MITの学生による獣害対策のアイデア発表などが行われ、交流会では、田根地区の皆さんと日本や外国の学生などが入り混じり、眼前に山と田園風景が広がるなかでは見慣れない国際的な雰囲気の中で、田根地区の未来が語られました。



地域づくり協議会の活動事例紹介

## そとものが地域を救う

～地域と大学の協働プロジェクト～

# 田根地区

## 地域づくり協議会



田根地区は、14の集落で構成され、浅井三姉妹のふるさと小谷城址東側山麓にあり、小堀遠州、片桐且元など五先賢といわれる五人の賢者ゆかりの地で、自然と歴史が大変豊かな地域です。平成19年3月24日に市内最初の地域づくり協議会が設立されたのが、この田根地区です。現在5つの部会を組織して活動されています。田根地区の地域課題は、「過疎化による空き家・空き地・定住対策、少子高齢化対策、獣害対策」という、日本の多くの地方集落が直面しているものです。この課題に対して、「地域と大学の協働ワークショップ」という地区外の若者達と連携したユニークな取り組みを行っています。

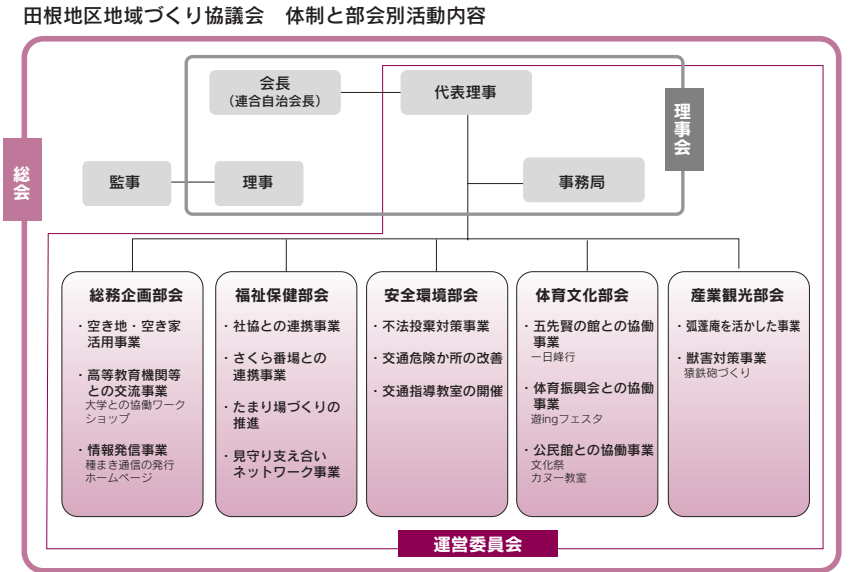


■慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科  
 教授 小林 博人 さん

田根の地域づくりに対する我々大学の役割は、地元の人に地域づくりにはこういうやり方もあるという考え方を示す、そとものしかできない発想を気づいてもらうことだと考えています。また、単に知恵だけを提供するだけではなく、ともに汗をかき、田根の将来を考えていきたい。

**「そともの」を受け入れる勇気**  
 田根地区・地域づくり協議会代表理事の川西章則さんは、「うちのもの（地元のもの）は、地域の魅力を見落とす。それをそともの（外部の者）に気づかせてもらう。また、うちのものは、そともの意見に耳を傾けるなど、そとものを受け入れる勇気を持つことも必要。この活動が田根モデルとなり、同じ悩みを持つ地域に発信していきたい」と意欲的に話されました。

**強力な知のパートナー**  
 地域が抱える課題に対応した持続可能な田根地区の未来像を考えようと平成19年から研究活動を続けているのが、慶応義塾大学 教授 小林博人さんを中心とする小林研究会（以下「小林研」）の学生メンバーと、その活動に賛同した米国マサチューセッツ工科大（MIT）の学生メンバー。そして、これを受け入れてともに考えていこうと積極的に活動を続ける地域づくり協議会の皆さん。さらに、人のつながりにより、同志社大学の学生や社会人も参加するようになり、ひとわり大きな輪になりました。こうして日本や世界を代表する大学と連携した地域づくりプロジェクトが始まりました。



■マサチューセッツ工科大学 院生  
 アイラ・ウィンダー さん

田根地区の自然や歴史、地域の皆さんの人柄にほれ込み、6年前から夏に田根地区の古民家でお世話になっています。今回のワークショップでは、30人ものMIT学生や卒業生など田根に連れてきました。今後も交流を深めて、田根のお役に立ちたい。